

## 日本熱電学会誌執筆要領

日本熱電学会 学会誌編集委員会

### (目的)

本要領は、『日本熱電学会誌』のおもな文書の形式を定めるものである。

### (発効)

本要領は、日本熱電学会編集委員会が発案し、運営委員会の承認を経て発効する。

### (改廃)

本要領の改廃は、日本熱電学会誌編集委員会が行う。

### (文書の種類)

『文書』の種類を原則として以下のように定める。

- ・ 講座：熱電現象に関連する理論・実験などに関する基礎的・一般的な記事。連載も可能とする。
- ・ 解説：熱電現象の関連するテーマに関する、専門的な記事。
- ・ 読者コーナー：読者からの投稿・意見。
- ・ 特許：熱電現象に関連した特許の紹介。
- ・ 製品紹介：熱電現象に関連した製品の紹介。
- ・ プレスリリース：熱電現象およびその応用に関するプレスリリース記事。
- ・ 巻頭言：内容は特に定めない。
- ・ トピックス：内容は特に定めない。
- ・ 研究室紹介：熱電現象に関する研究を行っている機関の紹介。
- ・ 研究紹介：熱電現象に関する研究の紹介。
- ・ 学会報告：熱電現象関連の発表のある学会への参加報告。
- ・ 総会報告：日本熱電学会総会の総括報告。
- ・ 講習会報告：熱電現象関連の講習会の開催あるいは参加報告。
- ・ 学術講演会報告：日本熱電学会学術講演会の報告。
- ・ 研究会報告：日本熱電学会の主催する研究会の報告。
- ・ 講演会開催予定一覧。
- ・ 会告：人事募集、追悼、決算報告、学会からのお知らせなど。
- ・ 表彰報告：日本熱電学会表彰委員会による表彰に関する記事、および、被表彰者のコメント。

### (テンプレート)

編集委員会は、学会誌用のテンプレートを用意する。テンプレートは実物大で、縦A4版、左綴じ、横書き、2段組とする。執筆者は、原則的にこのテンプレートを使用して原稿を提出する。

テンプレートは Web 上で入手できる。

### (構成)

文書は、以下の構成とする。

- ① 文書の種類
- ② 題名
- ③ 著者名
- ④ 本文
- ⑤ 引用文献

(規則詳細)

## 1. 共通事項

### 1. 1. 入稿

#### 方法

入稿は以下のいずれかの方法で電子ファイルにより行う。ただし、事前に、担当の編集委員にその手段の可否を確認する。

1. CD-R, FD 等の媒体に記録して郵送する。
2. 電子メールに添付する。
3. 商業的ファイル配送サービスによる。

#### 必要内容

1. 著者の意図する文字飾り、レイアウト、図表位置等を見るために、それらを含んだ形の PDF 形式ファイル。  
注) PDF 形式を作成できない場合は、使用されたワードプロセッサのファイルでも構わないが、その場合は、実際に印刷したものを郵送する。
2. 文字飾り、レイアウト、図表等を外して、本文の文字情報のみの TEXT 形式ファイル。
3. 図表等は全て、一つずつ別個に、原図のまま JPEG もしくは PDF 形式ファイル。  
注) 表は、TAB 区切り TEXT 形式ファイルでも構わない
4. 原稿中に一般的でない記号を含む式が有る場合は極力その式部分の一つずつグラフィックにした、JPEG もしくは PDF 形式ファイル。  
注) 一般的な記号のみで構成できる式の場合は「2.」の TEXT 形式ファイルに入れていても構わない。
5. 図および表の説明は、まとめて、TEXT 形式ファイル。

### 1. 2. 使用言語：

- ・原則として文章は日本語、漢字かな混じり文とする。
- ・文中に出てくる外国語はカタカナ表記が好ましいが、原語、ローマ字表記も可とする。  
e.g. ゼーベック効果は 1821 年、T. J. Seebeck によって発見された。

### 1. 3. 使用フォント

日本語部分は全角でフォントは問わない。

1. 3. 1. 数字は半角とする。
1. 3. 2. 外国語部分は英字表記とし、フォントは Times Proportional とする。
1. 3. 3. 句点は全角ピリオド“.”、読点は全角カンマ“,”を使用する。ただし、英数字部分に関しては半角とする。
1. 3. 4. 小数点は、半角ピリオド“.”とする。

## 2. 文書の種類

2. 1. フォントサイズは 16 ポイントとする。
2. 2. 位置：左寄せ、四角囲い、段数：一段

## 3. 題名

3. 1. フォントサイズは 16 ポイント、太字。
3. 2. 位置：中央、段数一段
3. 3. 英語副題をつける場合は 12 ポイントとする。

## 4. 著者名

4. 1. フォントサイズは 11 ポイントとする。
4. 2. 位置 右寄せ、段数：一段
4. 3. “姓□名 (執筆所属)”の形式とする。ただし、□は一字分の空白を示す。

- 4. 4. 連名の場合は、人数分行を使用する.
- 4. 5. 連絡先あるいは、e-mail address を脚注にて明記すること.
- 4. 6. 写真を添付：サイズは縦 35 mm×横 25 mm とする.

5. 本文

5. 1. 章立て

章立ては、(この要領に例示するような) ポイントシステム、あるいはベタ書きとする.

5. 2. 使用フォント

5. 2. 1. 題名, 項目名: ゴシックとする.

5. 2. 2. 本文: 1. 2 に準ずる, ただし,

- ・物理量, 数学変数は斜体, 演算子は立体 (ロマン体) とする.

e.g.  $C \frac{dT}{dt} = \kappa \nabla^2 T,$

- ・ベクトル・テンソルは斜体の太字とする.

e.g.  $\mathbf{J} = -\kappa \nabla T$

- ・元素記号, 単位などは立体 (ロマン体) とする.

e.g. Bi<sub>2</sub>Te<sub>3</sub>, *I*<sub>max</sub> = 6 A

5. 3. 図表

5. 3. 1. 定義

『図』とは、図面のほか、グラフ、写真、絵を含む.

5. 3. 2. 位置

- ・図・表ともに関連する本文の近く、原則として左右の段にまたがらないように配置する.

5. 3. 3. 図表説明

- ・図は当該図の下に、表は当該表の上に、「図 n」, 「表 n」の形式で番号を入れ、簡単な説明を入れる. ここで n は文書中の図, 表それぞれの通し番号である.

- ・文書中に図や表が 1 つしかない場合は、上記 n は省略する.

- ・説明は英語も可とする.

e.g. 図および図説明の例

e.g. 表および表説明の例

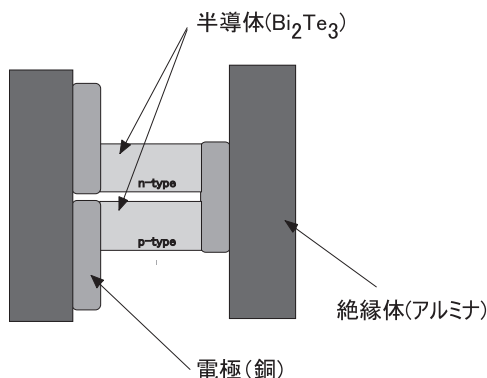


図1 熱電モジュールユニットの構造

表 項目と使用されるフォント

項目	フォント			
	日本文	英文	サイズ	
題名	明朝	Times P	14	太字
所属	明朝	Times P	12	標準
氏名	明朝	Times P	12	標準
本文	明朝	Times P	12	標準
脚注	明朝	Times P	10	標準
引用文献	明朝	Times P	12	標準

#### 5. 3. 4. 単位

- ・単位は SI 国際単位とその補助単位を用いる.
- ・単位中の負の冪はスラッシュ” / ” を用いず, 負の冪乗であらわす.

e.g.  $\mu\text{VK}^{-1}$ , mol など.

- ・極力 SI 接頭辞を用いる.

e.g. mm, cm, MPa, kV など<sup>\*1</sup>.

#### 5. 3. 5. 年号

- ・年号は西暦年号を用いる, ただしカッコ内に日本の元号を併記すること.

e.g. Seebeck 効果は 1821 (文政 4) 年, T.J. Seebeck によって発見された.

#### 5. 3. 6. 脚注

- ・脚注は上付きの \* 1, \* 2 などをつけ, 当該ページの下に注を載せる.

・e.g. 5. 3. 4 の単位についての脚注が例になっている.

#### 5. 3. 7. 文献引用

文献引用は, 上付きの 1), 2) などによって行い, 引用文献一覧を本文の後に付ける. その形式については, 6. に定める.

e.g. Seebeck 効果は 1821 (文政 4) 年, Seebeck によって発見された<sup>1)</sup>.

### 6. 引用文献

#### 6. 1. 雑誌の場合の形式

「著者名」 + 「:」 + 「雑誌名」 + 「巻」 + 「,」 + 「ページ」 + 「(西暦年)」

「雑誌名」は通常用いられている省略形を用いる.

「巻」は太字を用いる.

「ページ」は先頭のページ, あるいは先頭と最後をハイフンで結ぶ.

#### 6. 2. 単行本の場合の形式

「著者名」 + 「:」 + 「本の題名」 + 「,」 + 「出版社」 + 「,」 + 「ページ」 + 「(西暦年)」

「著者名」はローマ字表記では, 姓, 名, ミドルネームの順.

「本の題名」は斜体とする.

「ページ」は省略可.

e.g.

1) T.J. Seebeck: *Abhandlungen der Deutschen Academie der Wissenschaften zu Berlin*, 265, (1822)

2) A.F. Ioffe: *Semiconductor Thermoelements and thermoelectric Cooling*, Infosearch, London, 1957.

#### 7. その他

本要領では, 以下は形式を定めない

- ・講演会開催予定一覧
- ・編集後記

---

\*<sup>1</sup>たとえば抵抗率の単位として  $\text{m}\Omega\text{cm}$  は不可.  $1.2\text{m}\Omega\text{cm}$  は,  $12\mu\Omega\text{m}$  あるいは  $1.2 \times 10^{-5}\Omega\text{m}$  と書かねばならない.